様式A

報告書における作業計画に対するコメント

日本

コード委員会2024年9月会合

報告書における作業計画のタイトル又は事項：

作業計画—新規提案

提案/コメント：

日本はコード委員会に対し、過去にワクチン非接種清浄であった口蹄疫汚染国・地域がワクチン非接種清浄国・地域のステータスを回復する前に適用可能な、生鮮牛肉の輸入に関する勧告を追加するために、第8.8章口蹄疫の改正を検討するよう要望する。

論拠：

現行の第8.8章には、公的制御プログラムを有する口蹄疫汚染国からの生鮮牛肉の輸入に関する勧告があり、口蹄疫がまん延しており定期的なワクチン接種が行われている国・地域には適用可能な内容となっている。

しかし、過去にワクチン非接種清浄であった国・地域において口蹄疫が発生し、緊急ワクチン接種を行った後ワクチン接種動物をすべて殺処分するため、定期的なワクチン接種が想定されないような場合に対しては適用できない。このため、日本は、そのような国・地域がワクチン非接種清浄国・地域のステータスを回復する前に適用可能な、生鮮牛肉の輸入に関する勧告の追加が必要であることを強調する。

根拠：該当なし。

第4. X章

バイオセキュリティ

[…]

第 4. X. 87 条

バイオセキュリティの構成要素

バイオセキュリティはいかなる種類の個体群に適用できる。バイオセキュリティの要素は、個体群の外の要素との相互作用によって病原体の伝播のリスクの低減（外部バイオセキュリティ）、および個体群内での病原体の伝播のリスクの低減（内部バイオセキュリティ）に焦点を当てている。すべての関連するバイオセキュリティの要素は、病原体のすべての発生源、伝播経路および予期しない出来事に対応するために適用されるべきであり、個体群によって異なることがある。バイオセキュリティは、1) 外部バイオセキュリティ、および、2) 内部バイオセキュリティに分けられる。外部バイオセキュリティは主に個体群の外の要素（例えば、他の農場、他の地域）との相互作用に焦点を当てているのに対し、内部バイオセキュリティは個体群の要素間の伝播リスクの低減に焦点を当てている。外部バイオセキュリティと内部バイオセキュリティの区別は絶対的なものではなく、考慮される規模（例：国、地域、群）によって異なる。バイオセキュリティのいくつかの構成要素は、すべての伝播経路、病原体の発生源、予期しないリスクに対処するために、個体群および個体亜群に適用する必要があるかもしれない。バイオセキュリティの構成要素は、可能であればバイオセキュリティ計画に文書化されるべきである。

1. 外部バイオセキュリティの構成要素には以下のものが含まれる：

- a) 動物、動物製品および胚製品の導入は、可能な限り最小限とすべきであり、導入する場合には、動物およびその供給元の個体群の衛生ステータスを評価すべきである。
- b) 動物が個体群に導入されるときはいつでも、監視された十分な長さの隔離期間を経るべきであり、その間、病原体の伝播リスクを低減最小限にするための措置が実施されるべきである。
- c) 未知の、または異なる動物衛生ステータスの個体群間の直接接触は、管理措置、物理的または自然的な障壁による隔離により避けるべきである。
- d) 人の個体群への接触は管理されるべきである。人が動物群と接触する場合は、人と動物との接触は可能な限り制限すべきであるが、必要な場合には、最小限として農場専用の衣服や履物の着用、手指衛生などの予防措置を用いて、双方向の病原体の伝播のリスクを低減軽減すべきである。
- e) 動物の取扱いや世話に使用する機器は、異なる個体群間で共有すべきではない。共有する場合は、機器を使用前後に洗淨および消毒すべきである。
- f) 動物またはその製品と直接および間接に接触する輸送車両は、使用前後に洗淨および消毒すべきである。
- g) 動物製品、糞便、または糞尿または廃棄物は、病原体の拡散を軽減する方法で取り扱うべきである。

- h) 死亡した動物およびその一部は、他の動物、特に野生動物および節足動物との接触またはその誘引を避けるために、病原体の拡散を低減する方法で特定の容器または指定された場所で取扱い、保管および廃棄すべきである。
- i) 飼料は、病原体の潜在的な発生源との接触を最小限にするため動物に給餌する目的のためのみ、専用の機器で生産、保管および輸送すべきである。未処理の食品残さの給餌は避けるべきである。水は低リスクの水源から採取するか、使用前に病原体の除去または不活化のために不活化剤で処理すべきである。水と飼料の安全性は定期的にチェックすべきである。
- j) 個体群とペット、鳥類、げっ歯類、昆虫および鳥類、ペット、野生動物、害虫および個体群との直接的および間接的な接触は、工学的、機械的または化学的制御を用いて避けるべきである。
- k) 病原体の空気感染を最小限にするため、個体群と病原体の発生源となりうる他の場所との間の十分な距離を考慮すべきである。特定の状況において、伝播のリスクを軽減するために十分な距離の確保やその他の対策を実施することができない場合には、空気の処理濾過が考慮されるかもしれない。
- l) 洗浄および消毒または他の措置が実行できない場合、または有効性が不明な場合は、病原体の潜在的な発生源キャリア(例えば、人、建物、車両、設備、資材、牧草地、空閑)と個体群との間の接触を禁止する追加の期間を適用することができる。この措置の有効性は、特定の状況に依存し、検証されるべきである。

2. 内部バイオセキュリティの構成要素

日本	<p>分類：修辞上の修正</p> <p>テキスト修正案： 2. <u>内部バイオセキュリティの構成要素には以下のものが含まれる</u>：</p> <p>論拠：1. 外部セキュリティの構成要素との整合性を図るため。</p>
----	--

- a) 他の動物が曝露されないように、病気の動物を隔離すべきである。医原性感染を避けるために、安全に治療を行うべきである。
- b) 同一空間 (動物の群の間の空間の洗浄および消毒を含む) で飼育される全ての動物に対して、オールイン・オールアウト管理を行うべきである。
- c) 病原体の伝播率を高めたり、感染に対する感受性を高めたりすることによる衛生の悪化につながるような飼育密度は避けるリスク評価で考慮されるべきである。
- d) 個体群の中では、年齢や免疫状態などの特性が異なる動物ユニットは別々に飼うべきである。
- e) 個体群の管理に異なるユニットとの接触が含まれる場合は、病原体の伝播およびユニットの感受性を考慮して、最も低い感染のリスクから始まり、最も高いリスクで終わるように、疾病リスクに応じて作業フローを構成するべきであることが望ましい。ユニットの間を移動する場合は、新しいグループや新しい動物カテゴリーと接触する場合には、履物や衣服の交換、手指衛生の実施などのバイオセキュリティ病原体の伝播を低減するための対策を適用考慮すべきである。各グループで、専用の機器または資材を使用すべきである。
- f) 機器および地面の洗浄および消毒は、連続した動物グループの間に適用すべきである。

[...]

第1.6章

WOAHによる公式疾病ステータスの認定、公的制御プログラムの承認および自己清浄化宣言の公開の手順

[…]

第1.6.4条

特定の規定

国または地域の疾病ステータスは以下に影響されない。

- 検疫センターにおける輸入動物での疾病、感染または外寄生の存在
- 陸生マニュアルにしたがった、適切な検査室バイオセーフティーおよびバイオセキュリティを有する検査室または他の承認された施設における、病原体または病原体を含む物品もしくは生物の輸入または存在

このことは、陸生コードおよび陸生マニュアルの関連する基準に適合していることの証明によって裏付けされる。

日本	<p>分類：追加</p> <p>テキスト修正案：</p> <p><u>国または地域の疾病ステータスは以下に影響されない。</u></p> <ul style="list-style-type: none">- <u>検疫センターにおける輸入動物での疾病、感染または外寄生の存在</u>- <u>陸生マニュアルにしたがった、適切な検査室バイオセーフティーおよびバイオセキュリティを有する検査室または他の承認された施設における、病原体または病原体を含む物品もしくは生物の輸入または存在</u>- <u>国境検査所における病原体、又は病原体を含む物品又は生物の存在</u> <p>論拠：</p> <p>リスト疾病又は輸入国の要件が参照している疾病の病原体、又は病原体を含む物品若しくは生物が国境検査所における輸入検疫で検知されることがある。検知された後に適切な措置がとられるのであれば、検知されたとしても輸入国の疾病ステータスに影響するべきではない。</p> <p>この点が明確になっていなければ、たとえば、輸入国の国境検査所ではちみつの中にスモール・ハイブ・ビートル (<i>Aethina tumida</i>) が検知された場合、第 9.4 章にしたがって当該国の清浄ステータスが当該虫の存在によって影響を受ける可能性がある。</p>
----	--

第5.6章

物品の輸入に適用される措置および手続

第5.6.1条

目的および範囲

本章では、不当な制限を設けることなく、輸入地点への国の国境に到着した時点から物品が通関されるまでの間、物品の国際貿易を通じた病原体の拡散を防止するため、物品の輸入において適用可能な措置および手続の一般原則を定める。

本章では、第 5.1.2 条に記載されている責任に加えて、輸入国に対し、措置および手続、獣医当局およびその他の関係する所管当局並びに自然人または法人または個人（以下「事業者」）の役割および責任に関する勧告を提供する。本章では、輸入に関する公的管理の質および実施能力を担保するための指針を提供する。本章は合法的輸入のみを対象にするのではなく、違法又は非公式な物品の入国の一般的な勧告も提供する。

日本	<p>分類：全般</p> <p>日本は、「非公式な物品の入国」の明確化を要望する。</p> <p>論拠：現行の陸生動物コードでは、「非公式な物品の入国」という用語は使われていない。あいまいな用語の使用は避ける方がよい。</p>
----	---

~~輸入国または地域の動物衛生ステータスは、検疫センターまたは国境検査所における輸入動物での疾病または感染の存在によって影響を受けない。~~

[…]

第5.6.3条

輸入の公的管理の手続に適用される一般原則

獣医当局またはその他の関係する所管当局は、貨物が輸入国の要件に適合しているか否かを決定するため、輸入品を管理すべきである。

公的輸入管理は、国境検査所、入国地点、検疫センター、仕向地または貨物に責任を有する事業者の施設を含む適切な場所で行われるべきである。貨物は、正式な通関が行われるまで、獣医当局またはその他の関係する所管当局の管理下に置かれるべきである。

緊急時には、船舶および航空機は、本来の目的地ではない港または空港へのアクセスを許可されることがある。このような場合には、獣医当局またはその他の関係する所管当局が潜在的なリスクに基づいて必要と認める動物衛生およびアニマルウェルフェアに関する措置を受けるべきである。

1. 公的検査

物品の公的検査が実施される場合には、常に書類検査を含むべきであり、人および動物の衛生およびアニマルウェルフェアに対するリスクに応じて、識別検査および現物検査も含むべきである。獣医サービス当局またはその他の所管当局が識別検査または現物検査のために貨物に完全にアクセスする必要がある。

る場合には、貨物は部分的または完全に輸送手段から降ろされるべきである。

a) 書類確認

公的管理検査のために提示されたすべての貨物について、輸入国の要件を満たしていることを確認するための書類検査が実施されるべきである。

書類検査には、国際動物衛生証明書の精査、場合によっては、商業的な性質のものを含む検査機関の報告書またはその他の書類の検査が含まれるべきである。これらの書類は、貨物に添付される必要がある。

書類検査を行う場合、獣医サービス当局またはその他の所管当局は、輸入国と輸出国との間で合意された原本またはデジタルの必要書類を検査し、次のことを確認すべきである。

- i) 国際動物衛生証明書が輸出国の獣医官によって発行されていること；第 5.2.3 条に規定された関連原則に適合しており、第 5.10 章から第 5.13 章までにに基づき、輸入国と輸出国との間で当該物品およびその使用目的について合意した定めたモデルに関連するものとして適合すること。

日本	<p>分類：追加</p> <ul style="list-style-type: none">i) <u>国際動物衛生証明書</u>が<u>輸出国</u>の<u>獣医官</u>によって発行されていること；第 5.2.3 条に規定された関連原則に適合しており、<u>第 5.10 章から第 5.13 章までに</u>に基づき、<u>輸入国が作成した、または適用可能な場合は輸入国と輸出国との間</u>で当該物品およびその使用目的について<u>合意した</u><u>定めたモデル</u>に<u>関連するもの</u>として適合すること。 <p>論拠：2024年4月のアドホックグループ会合で言及のあったとおり、<u>国際動物衛生証明書</u>は必ずしも二国間協議に基づく訳ではないため。</p>
----	--

- ii) 検査された文書に含まれている情報が輸入国の要件に適合していること。

b) 識別検査

識別検査は、貨物が検査地点に到着した際に、物品、シール（封印）、輸送手段の識別を含む貨物の内容および表示が国際動物衛生証明書および添付書類に記載された情報と一致していることを確認するための目視検査として実施する。

識別検査の頻度、検査する物品の数量および検査の選択サンプリングの基準は、リスク評価に基づいて輸入国の獣医当局またはその他の関係する所管当局が決定する。

c) 現物検査

現物検査には、適切な場合、以下のものが含まれるべきである。

- i) 伝染性疾病およびアニマルウェルフェア上の問題の証拠のための動物の臨床検査
- ii) 動物製品および胚製品の現物検査
- iii) 必要に応じて、包装および表示の検査

-
- iv) ~~輸送手段、表示~~および温度規則の検査
 - v) 分析、試験または診断のためのサンプリング
 - vi) 輸入国の要件への適合性を確認するために獣医当局またはその他の関係する所管当局によって要求されるその他の検査

物理的検査の頻度、検査される物品の量および物理的検査の選択サンプリングの基準は、リスク評価に基づいて輸入国の獣医当局またはその他の関係する所管当局によって以下を考慮して、決定されるべきである。

i) 動物

~~輸入国の獣医当局またはその他の所管当局は、~~貨物中の動物の総数および申告された動物の目的に従って、臨床検査を受ける動物の数を決定すべきであり、実施された現物検査の結果が良好でなかった場合には、その数を増やすことができる。

場合によっては、個別に識別する必要のない動物および危険と考えられる動物については、臨床検査は、集団全体または母集団を代表する数の動物の健康状態および行動の観察から成ることとすることができるべきである。

臨床検査で異常が明らかになった場合には、必要に応じて、検体採取および試験を含むより詳細な臨床検査を実施することができる。

ii) 胚製品

~~獣医当局またはその他の所管当局は、表示および輸送条件が輸入国の要件に適合していることを検証するために、~~貨物の現物検査を実施すべきであり、これには、温度記録（~~関連する場合~~）並びに封印、包装材料および極低温タンクの完全性が含まれる。

~~輸入国の獣医当局またはその他の所管当局は、検査すべき個数を決定すべきであり、実施された検査が満足のもの~~でなかった場合には、検査数を増やすことができる。

~~獣医当局またはその他の所管当局は、表示が輸入国の要件に適合していることを確認するために、~~現物検査を実施することができる。

現物検査には、胚製品の検査室検査を含めることができる。

現物検査で異常が明らかになった場合は、より詳細な検査を行うことができる。

iii) 動物製品

~~獣医当局またはその他の所管当局は、表示および輸送条件が輸入国の要件に適合していることを検証するため、~~貨物の現物検査を実施すべきであり、これには温度記録（~~関連する場合~~）および包装材料および封印の完全性が含まれる。

~~獣医当局またはその他の所管当局は、表示が輸入国の要件に適合していることを検証するため、~~現物検査を実施することができる。

現物検査には、動物製品の官能検査および検査室検査を含めることができる。

現物検査で異常が明らかになった場合は、より詳細な検査を行うことがある。

2. サンプルングおよび試験

輸入された物品のサンプルングおよび試験は、国際動物衛生証明書に規定された衛生輸入国の要件への適合性をチェックする目的で、リスクベースのサンプルング計画に従って、または物品の書類、識別または現物検査から生じる不適合の疑いがある場合に、不当な貿易への障害を生じないように、実施することができる。試験は、認可された検査施設で実施されるべきである。

獣医当局またはその他の関係する所管当局は、輸入貨物のリスクベースのサンプルング計画を作成することができる。この計画では、輸入国および輸出国の動物衛生ステータス、関係する動物種、物品の性質および申告された目的、貨物の輸入量および以前のサンプルングの結果を考慮して、サンプルングされる貨物の割合を指定すべきである。

サンプルング計画に従ってサンプルングされた物品から動物衛生または公衆衛生に対する差し迫った危険が疑われない場合には、検査施設での検査結果が得られる前に、貨物を解放させることができる。必要な場合に物品をリコールするため、トレーサビリティのシステムが整備されているべきである。

3. 輸入時の衛生措置

輸入国の要件を満たすため、輸出国において実施される衛生措置に加えて、輸入国の獣医当局またはその他の関係する所管当局は、輸入に際して、公的管理からの解放前に、物品に対する衛生措置の実施を要求することができる。この措置には、第4.14章に従って、物品の輸送および荷卸しに使用される輸送手段およびコンテナの消毒および節足動物ベクターの駆除を含めることができる。

動物の場合、この措置には、ワクチン接種、治療または隔離を含めることができる。その他の物品の場合、この措置は、留置期間または物理的若しくは化学的処理の適用を含むことができる。

4. 貨物の解放

実施された公的輸入管理に基づき、輸入国の獣医当局またはその他の関係する所管当局は、貨物が輸入国の要件に適合しているか否かを決定すべきである。

貨物が輸入国の要件に適合しているとの決定がなされ、解放された場合には、獣医当局またはその他の関係する所管当局は、その旨を事業輸入者に通知すべきであり、その情報は税関当局に提供されるべきである。

[…]